

皆様 ありがとうございます! 小さなハートプロジェクト 2016年度実施報告①

小さなハートプロジェクト

当会は1992年のプロジェクト開始時よりのべ700件以上のプロジェクトに対し、1億8000万円以上の支援を行っています。

今後も実施報告を随時ご紹介して参ります。

1 オザヤ市における児童保護施設の ドミトリー拡充と緊急対策

Kenya

三関 理沙さん (2014年度1次隊/コミュニティ開発/ケニア)

ケニアのオザヤ市は貧富の格差が激しく、育児放棄や虐待を受けた結果、路上で暮らす子どもたちも少なくありません。こうした子どもたちの保護施設の1つピウォミ保護施設には51名が暮らしていますが、寄付で運営されているため学費や食費に殆どが費やされてしまいます。子どもたちが眠るベッドは劣化が激しく、危険なだけでなく不衛生なので健康状態も心配でした。今回のプロジェクトで清潔なマットレスを購入して寮のベッドを整備、緊急時に備えて消化器と救急箱も設置しました。プロジェクトを進めていく中で、施設の運営で頭が一杯になっていた職員にも子どもたちの健康や安全といった気持が高まったようです。救急箱の医療品や消化器の使い方等の講習会ではケニア赤十字の職員も協力してくれて、新たな関係も生まれました。



ピウォミ保護施設の子どもたちと。夜ベッドに入るのが楽しみになりました。

支援金額：237,546円

支援者：青年海外協力隊とちぎ応援団
全国電力関連産業労働組合総連合
足利市ボランティア協会
足利市社会福祉協議会

2 町の病院の上水道設備 強化プロジェクト

Djibouti

安藤 はるかさん (2014年度3次隊/看護師/ジブチ)

夏は50度近くまであがる「世界一暑い国」ジブチ。私の配属先は州の基幹病院ですが、水道は老朽化等の多くの問題を抱え、手洗いや洗濯等の水も使うことができず、病院とは思えないほどの不衛生な環境でした。今回のプロジェクトで院内に大きな貯水槽を設置するとともに老朽化した水道管の入れ替え工事を行い、上下水道の強化に取り組みました。途中、保健大臣の人事異動のため許可を得るまでの苦勞、お金がもらえる訳ではない労働に対するモチベーションの低さ等、いくつもの壁に悩みましたが、健康を守るために何故水が必要なのか、必死で訴え続けていく中で次第に理解者も増えていき、最後には多くの方が完成を待ちわび、寄付までしていただきました。プロジェクトを成功させることがどれ程大変な事か身を持って体感しましたが、それ以上のものをいただきました。



技術者とボランティアで貯水槽建設に取り組みました。

支援金額：265,418円

支援者：青年海外協力隊とちぎ応援団
全国電力関連産業労働組合総連合
株式会社アサヒビール

4 女子生徒の就学継続を目指して! ムワンジェ小学校校舎修復プロジェクト

Malawi

長根尾 和子さん (2014年度2次隊/青少年活動/マラウイ)

地域の中でも特に古いムワンジェ小学校。強風による被害で8教室中、半分の4教室の屋根と茅葺で作られた仮教室2つが吹き飛ばしてしまいました。多くの生徒が直射日光を避けながらマンゴーの木の下で授業を受けており、無断欠席や退学も目立ち始めたためにプロジェクトの実施を決意しました。残された任期までに終わることができるか心配でしたが、皆で協力してプロジェクトを成功させるよう村長とPTA会長が後押ししてくれました。立派な教室が完成し、野外で授業を受けていた約120名の生徒が新教室で学ぶことができるようになりました。落ちついて学べる環境ができたため、かねてから問題である女子学生の早期妊娠による退学について考える機会を与えたいと思っています。



新教室の引き渡し式には多くの方が参加してくれました。

支援金額：299,166円

支援者：石川県青年海外協力隊を支援する会
石川県立金沢二水高等学校
全国電力関連産業労働組合総連合、他

小さなハートプロジェクト実施中

雨が降っても授業を受けたい！ 小学校に屋根を！屋根建設プロジェクト



吉原 伸彦さん 2016年度3次隊/青少年活動/ウガンダ
支援者：全国電力関連産業労働組合総連合様

ミヤンジ町はムベンデ県の端にある小さな町です。中学校も私の配属先しかありません。しかし、小さい町だからこそ地域住民の繋がりは強く、困ったことがあれば助け合って生活しています。

ウガンダは人口増加率が世界第6位となっており、子どもがたくさん生まれて人口が増えていっている国です（現在約4000万人）。そのうち19歳以下の人口は約2千4百万です。しかし小学校卒業人数は約65万人（2016年度）と圧倒的に少ないです。それは学費が払えない、学校には行けるが教科書がないなど、要因は様々です。しかし、勉強するために工夫し、また生徒同士で助け合い

勉強をしています。この姿を見ていると、自分も「もっとやろう」という気持ちにさせてくれます。そんな子供たちがウガンダにはたくさんいます。

学校には使われてない屋根なしのレンガの建物があり、屋根を建設したら、そこで授業ができるのですが、資金不足によりその建物は途中で建設を中断せざるを得なくなりました。本プロジェクトは、藁葺屋根では雨が凌げず授業を中断しなければならない状況を改善するものです。生徒の「雨が降っても授業を受けたい、勉強したい」、この気持ちに応えるため、プロジェクトを実施しています。

協力隊を育てる会ニュース第402号4面抜粋

電力総連 組合員から 届けられたハート



目録を授与する電力総連会長代理木村健一氏(左)と、当会の松岡和久常任理事(右)

1月22日（月）、協力隊を育てる会事務局において、全国電力関連産業労働組合総連合より「小さなハートプロジェクト」への支援金60万円の贈呈式が行われた。

これは全国の同組合員が実施している「ふれあいカンパ」で集められたご芳志で、25年にわたり計62件のプロジェクトにご支援をいただいております。その支援総額は1300万円以上に及ぶ。昨年ウガンダの隊員が申請した小学校の屋根建設プロジェクトに活用させていただいている。